

平成17年9月14日

お 知 ら せ

斐伊川流域の水辺を考える懇談会 意見交換会の開催について

宍道湖周辺の水辺における取り組みなどをモデルケースとして、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについて提言することを目的とした「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」では、これまで2回の懇談会を開催し、議論を重ねてきたところであります。

「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」ではこの度、住民の方にご意見をいただき、今後の議論の参考とすることを目的として、住民の方との意見交換会を開催することとしましたのでお知らせします。

1. 日 時 平成17年9月18日(日) 13:30～15:30 別紙1
2. 会 場 くにびきメッセ 3階国際会議場

意見発表者は10名を予定しております。 別紙2

第一回、第二回の懇談会の概要、資料につきましては、出雲河川事務所ホームページでご確認いただけます。

<http://www.izumokasen-mlit.go.jp/mizubekondankai/top.htm>

参考資料1 設立趣旨

参考資料2 委員名簿

お問い合わせ

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

TEL 0853 - 21 - 1850 (代表)

調査設計課長 わが和賀 まさみつ正光

(別紙1)

意見交換会プログラム

- 13:00～ 開場・受付
- 13:30～ 開会
基調講演（島根県立島根女子短期大学名誉教授 藤岡大拙氏）
- 13:50～ 懇談会の経過報告
- 14:10～ 意見交換会
- 15:20～ 閉会

注) 時間を一部変更する可能性がありますので、予めご了承下さい。

(別紙2)

【意見発表者名簿】

氏名	所属
落合 薫	NPO法人プロジェクトゆうあい理事
柏井 光	NPO法人まちづくりネットワーク島根専務理事
組嶽 博志	松江市在住 自営業
小谷 武	NPO法人斐伊川くらぶ理事長
後藤 裕志	松江青年会議所理事長
佐藤 和彦	親子手作りカヌーの会あめんぼう事務局
多久和 富義	タクワサイクル店長
武内 純子	境港市在住 松江市勤務
寺本 正次	道の駅秋鹿なぎさ公園施設長
前門 静佳	境港市在住 高校生

敬称略、五十音順

斐伊川流域の水辺を考える懇談会

設 立 趣 旨

斐伊川流域の歴史は、洪水防御と新田開発、用水確保、舟運の発展など斐伊川の変遷とともにあり、沿川の人々の暮らしは、斐伊川のもたらす恵みを楽しみながら発展してきた。流域の暮らしは今も斐伊川と密接なかかわりを持っており、これからの流域における地域づくりを考えるに際しては、この斐伊川の水や自然、景観などどう捉え、どう向き合っていくのかが大きなテーマとなる。

斐伊川流域の中でも、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖は、島根県を代表する観光資源であり、近年も斐川なぎさ公園、秋鹿なぎさ公園、岸公園などの湖畔公園、水辺を活かした県立美術館や宍道湖ネイチャーランドの整備、堀川遊覧船が運航する松江堀川の導水事業など、地域づくりへの活用が進んでいる。さらに、昨年度は後世に残すべき風景として宍道湖水辺八景が新たに選定されるなど、水辺と暮らしのあり方を考える多くの材料を提供している。

経済の衰退や加速する少子高齢化などの課題を克服し、斐伊川流域が活力ある地域を創造してゆくには、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせない。

そこで、宍道湖周辺の取り組みなどをモデルケースとし、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについて提言をいただくことを目的に、「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」を設立し、将来にわたる斐伊川流域発展の一助とする。

(参考資料 2)

【斐伊川流域の水辺を考える懇談会委員名簿】

氏 名	所 属
木幡 修介	山陰中央新報社相談役
塩飽 浩一郎	日本旅行業協会島根地区会会長
田江 泰彦	島根経済同友会代表幹事
野津 登美子	ホシザキグリーン財団企画交流課長心得
福島 律子	松江市教育委員会教育長
藤岡 大拙 (座 長)	島根県立島根女子短期大学名誉教授
丸 磐根	島根県商工会議所連合会会頭
吉田 薫	風景研究室代表

敬称略、五十音順